

## 後京極良經公塔

〔鳥辺山要法寺墓所に至る道の右岸の上にある。傍に標石あり、後京極撰政良經公之墓と鐫る、

## 烏石の筆

藤原良經公之墓在于洛東要法寺。而歲月悠■荆榛荒涼不可復識也。享保年中並河生奉■大樹鼎命■脩■畿内志。時

■木以表。而今也朽矣。明和二年春烏石葛辰翁偶遊■此地。嘆■其蕪穢■且悲■蟋蟀之吟。乃誅■榛芟■荆脩■治墳墓■

新立■標石。祭以■香醪■且賦詩藏■于其寺。住持日慈感■翁之志■請書■其事。予於是識赤水藤原岳尚撰。蒲野谷豊

書。

## 法国寺

〔五条大谷口にあり、時宗。本尊阿弥陀仏は安阿弥の作、立像二尺五寸。額曰、当伽藍者江州北郡■浅井備前

守息女■重相秀頼母公、為二世安樂建立也云々。本堂は大仏殿建立の残材を以て建るなり。書院は新上東門院の殿舎を御

寄附し給ふ〕

## 袋中庵

〔同所南方にあり。本尊阿弥陀仏、恵心作、座像三尺五寸許。又法然上人張子御影あり、熊谷蓮生の作、座

像一尺許。又聖觀音は東の小堂に安置す。当庵は梅檀王院袋中上人隱棲の地なり。初め東山菊澗にあり、其後大仏瓦

町にうつし、又こゝに移す。今女僧住職す〕

## 赤築地

〔五条大谷口より松原經書堂の前に出る道をいふ、土人赤辻と呼ぶ。知恩寺絵詞伝云、文永の頃聖光坊弟子然阿弥陀仏、勢觀坊弟子蓮寂房と東山赤築地に於て四十八日の談義を始む。盛衰記云、清水寺の僧赤築地二の閑道へぞ落行ける〕

## 安祥院

〔五条大谷口のひがしにあり、宗旨四宗兼学、梶井御門跡の法流とす。靈元法皇の勅願所。後西院の神牌を安置す〕

## 本尊阿弥陀仏

〔恵心の作、立像五尺七寸五歩〕開山木食養和上人〔姓は村上氏、駿州の人なり。此人慈憐深くして駅路の行人牛馬の苦辛を悲しみ、日岡峠渋谷峠、おのゝ高さ九尺を掘穿て坂路の嶮しきをやすらかにし、不易の勳功を積給ふ。又は因幡堂の石橋、西七条八町畷の二箇の石橋、御所八幡の敷石、炬火殿の井戸、其外橋を架し道を作る事上人一生涯の中かずくあり。是みな持戒円満の積功顕然たりし謂なりけり。抑当寺は西本願寺寂如上人の室梅香院殿の御本願にして、享保年中の建立なり。木食上人は老後日岡峠に梅香庵をいとなみ、こゝに退隱して終をとれり〕

## 西光寺

〔安祥寺の北、松原通の南側に、浄土宗知恩院に属す。初めは山科東野村にありて空也寺と号す。大雲院九世高誉上人再興して今宗と成、寛延二年今の地へ移す〕

本尊阿弥陀仏 〔安阿弥の作、立像三尺許〕 空也上人〔自作、立像一尺七八寸〕

空也上人廟 〔本堂の北にあり、中に石櫃あり、蓮花を鑄。伝云、遺骨を納む。傍に石碑を立つ、撰者は黄檗高泉和尚なり〕 聖観音 〔空也上人の作、本堂北の脇櫃に安置す。朱雀帝の皇妃熙子の御安産御禱の為につくりまし、其願文を腹内に収む〕

六字名号 〔空也上人の筆、一生涯の中に七福書給ふ其一幅なり〕

蓮の露をよみ侍ける

新勅撰 有漏の身は草葉にかゝる露なるをやがて蓮にやどらざりけむ 空也上人

阿仏家 〔六波羅密寺のひがし南側にあり、世人阿仏屋敷といふ。前栽に小祠あり〕

〔うた、ねに云、思ひがけぬたよりにてをたぎのちかき所にてはかなきやどりもとめ出てうつろひなんとす〕

西福寺 〔六波羅密寺の門前にあり、浄土宗。本尊阿弥陀仏、春日の作、座像三尺許。四十八願所巡りの卅一番なり。〕

又土仏の地藏尊を安置す、弘法大師の作〕

焰魔堂えんまだう

〔同所北側にあり、小野篁たかむらの作、世に禹王うわうの像といふは非なり。古は鳥辺野無常所の入口なり、此ほとりを六道辻といふ。焰魔堂は百練抄にも見へたり〕